

研究事業評価調書(平成19年度)

作成年月日	平成19年4月18日
主管の機関・科名	総合農林試験場作物園芸部花き科

研究区分	経常研究(途中評価)
研究テーマ名	新規導入花きの技術開発

研究の県長期構想等研究との位置づけ

長期構想名	構想の中の番号・該当項目等
ながさき夢・元気づくりプラン (長崎県長期総合計画 後期5か 年計画)	重点目標： 競争力のあるたくましい産業の育成 重点プロジェクト：6 農林水産いきいき再生プロジェクト 主要事業： 農林業の生産性・収益性の向上
長崎県農政ビジョン後期計画	行動計画14.長崎県農林業をリードする革新的技術の開発 省力・低コスト生産技術の確立
長崎県農林業試験研究の推進構 想	試験研究の基本的課題 (3).低コスト・省力化・軽作業化に向けた技術開発

研究の概要

1. 研究開発の概要

- (1) 本県民間育種家によって育成された「マーガレット」オリジナル品種の品種特性の把握、促成栽培技術開発(電照、穂冷蔵、冬季温度管理の検討)を行う。
県内で育成された耐暑性の「長崎ラベンダー」の鉢物栽培における開花調節技術の開発のために、促成栽培技術開発(低温要求量、電照効果、加温効果の検討)、抑制栽培技術開発(電照効果、切戻し方法の検討)を行う。
- (2) カーネーション栽培農家の複合経営品目として労力競合を避け導入可能な品目・品種(キンギョソウ、トルコギキョウ、デルフィニウム、チドリソウ等)の選定を行う。
また、労働ピークをさけるために3月までに開花させる技術の検討(冬季温度管理等)を行う。

研究の必要性

1. 背景・目的

【社会的、経済的情勢から見た必要度】

本県の花き生産は、生産額63億円のうち、キク25.6億円、カーネーション9.3億円の2品目が顕著な伸びを示している他は基幹品目がない。

花き生産額100億円計画を達成するためには、販売額を増大させることができる商品メニューを開発し、現場に提案することが必要である。

また、花き栽培農家の新規参入を推進するために、新しい商品開発として「マーガレット」オリジナル品種と「長崎ラベンダー」の技術開発を行う。

また、カーネーション栽培農家の複合品目として取り入れられる品目選定と栽培技術の開発を行う。

【研究開発成果の想定利用者】

県内花き生産者

【どのような場所で使われることをも想定しているか】

県内花き生産者圃場

【どのような目的で使われることを想定しているか】

花きの新産地及びカーネーション栽培農家の複合経営導入品目

【緊急性・独自性】

- ・ 「マーガレット」オリジナル品種と「長崎ラベンダー」については長崎県内で育成された品種であり、栽培技術が未確立であるがこれまで試験研究の事例はない。

- ・ 当農試では、これまで不耕起栽培に適する品目としてトルコギキョウ、シンテッポウユリ、ベニバナ、バラを選定した。

また、キンギョソウとのローテーションを組み立てるためキンギョソウの年内開花後の夜温管理による3月開花技術を開発した。

カーネーション栽培農家の複合品目導入試験にあたって、カーネーション栽培との労力競合を避けるための作型開発、品目選定に不耕起栽培試験の成果を活用できる。

2. ニーズについて

【今利用されている技術・商品には、何が足りないのか】

県内農家で栽培している品目・品種は、民間種苗会社開発の品目・品種が主流で、全国で栽培されており、地域のオリジナル品目・品種の栽培は取り組まれていない。

【想定利用者は、現在どのようなニーズを抱えているか】

- ・ 地域のオリジナル性をもった品目・品種の栽培をもとめている。

3. 県の研究機関で実施する理由

地域性の高いオリジナル品種の栽培技術確立には他県の取り組みは期待できず、本県の研究機関で実施する必要性が高い。

効率性

1. 研究手法の合理性・妥当性について

主要な研究段階と期間、各段階での目標値（定性的、定量的目標値）とその意義

研究項目	活動指標名	期間(年度～年度)	目標値	実績値	目標値の意義
マーガレットの栽培技術確立	品種特性の把握	18～20	4品種	1品種	オリジナル28品種から有望品種を選定。 長日処理、苗冷蔵等
	促成栽培技術の開発	18～20	2技術	2技術	
「長崎ラベンダー」の栽培技術確立	促成栽培技術の開発	18～20	1技術	1技術	4～5月出荷技術(低温遭遇期間、栽培温度等)
	抑制栽培技術開発	18～20	1技術	1技術	7～9月出荷技術(切戻し、植え替え方法、株冷蔵等)
複合経営における品目選定と栽培技術確立	新しい品目の選定	18～20	2品目	1品目	トルコギキョウ、キンギョソウ等の作型にあった優良品種の選定
	3月開花技術の開発	18～20	1技術	1技術	栽培温度管理、長日処理等

2. 従来技術・競合技術との比較について

- ・ キンギョソウは、12月に開花させた後に最低夜温を15℃に上げることにより、2番花を3月に開花させることができる。(長崎総農林試、2002～2003)。
- ・ マーガレットの開花調整技術については従来の栽培品種についてのものであり、今回のオリジナル品種については開花調整技術は未確立である。
- ・ ラベンダーの開花調節技術についても一部の品種で実施されているが実用化されておらず、また、耐暑性を備えた「長崎ラベンダー」については栽培技術、開花調節技術とも未確立である。
- ・ カーネーション農家の複合経営導入品目については、労働競合面から有利な品目の栽培についてはまだ確立されていない。
- ・ マーガレット、ラベンダーともオリジナル品種であり、需要面での評価が未確立であるため、試験期間中から市場等の意見を取り入れながら試験をすすめていきたい。
- ・ カーネーション栽培農家の複合経営導入品目についても市場評価を参考に品目・品種選定を行っていきたい。

3. 研究実施体制について

- ・ オリジナル品種を育成した県内の民間育種家と情報交換を行いながら試験計画を立てて試験を実施していく。また、長崎県花き振興協議会の鉢物部会、草花部会、カーネーション部会とも情報交換を行いながら試験を実施していく。
- ・ カーネーション栽培農家の複合経営導入品目については民間種苗会社等と連携をとりながら試験を実施していく。

構成機関と主たる役割

- (1) 総合農林試験場：新規導入花きの技術開発
- (2) 農林部農業経営課技術普及班：新技術の現地実証

4. 予 算							
研究予算 (千円)	計	人件費	研 究 費	財 源			
				国 庫	県債	その他	一財
				全体予算	17,994	12,000	5,994
18年度	5,998	4,000	1,998			600	1,398
19年度	5,998	4,000	1,998			600	1,398
20年度	5,998	4,000	1,998			600	1,398
年度							

：過去の年度は実績、当該年度は現計予算、次年度以降は案

有効性

1. 期待される成果の得られる見通しについて

- ・ マーガレットオリジナル品種については、育成農家での栽培事例があり、ある程度技術の蓄積もある。

「長崎ラベンダー」については、現在、花き振興協議会鉢物部会にラベンダー研究会が結成されており、それぞれ試作に取り組みながら随時検討会を開催して問題点の検討を行っており情報交換がすすんでいる。

カーネーション農家の複合経営導入品目については、草花部会等とも連携しながら品目、品種検討をおこなっている。以上のことから期待される成果を得られる可能性は高い。

2. 成果の普及、又は実用化の見通しについて

技術的成果については、随時、各地区普及センター、農業経営課技術普及班と連携しながら、花き振興協議会鉢物部会、草花部会、カーネーション部会を中心に、農試圃場での実証、現地実証等をおして生産者へ普及していく。新産地の育成、企業的花き農家の育成につながる。

成果項目	成果指標名	期間(年度～年度)	目標数値	実績値	目標値の意義
マーガレットオリジナル品種の栽培技術確立	有望品種の選定	19～20	4品種		有望品種の選定
	栽培技術確立	19～20	2技術		促成栽培技術確立
「長崎ラベンダー」の栽培技術確立	栽培技術確立	19～20	2技術		促成・抑制裁培技術確立
複合経営導入可能品目の選定と技術確立	品目選定	18～19	2品目	1品目	複合経営導入品目選定
	栽培技術確立	19～20	1技術		開花調節技術確立

【研究開発の途中で見直した内容】

--

研究評価の概要		
種類	自己評価	研究評価委員会
事前	(平17年度) 評価結果 (評価段階： 5) ・必要性：5 ・効率性：5 ・有効性：5 ・総合評価：5	(平17年度) 評価結果 (評価段階： 4.3) ・必要性 ・効率性 ・有効性 ・総合評価
	対応	対応
途中	(19年度) 評価結果 (評価段階： A) ・必要性：S ・効率性：A ・有効性：A ・総合評価 A	(19年度) 評価結果 (評価段階： A) ・必要性： オリジナル品目は経営安定が見込まれ、県の花き生産振興に資するもので実施の必要性は高い。 ・効率性： 県花き振興協議会のほか、育種家、民間種苗会社と連携し効率的に研究が進められている。 ・有効性： マーガレットでは有望品種の絞り込みと開花促進に目途が付き、複合品目ではトルコギキョウが有望であることが判明するなど、一定の成果が得られており、最終年度には所定の成果が期待できる。 ・総合評価： 一定の成果が得られており、研究は順調に進捗している。
	対応	対応 1 生産者や関係企業、団体と連携をとりながら研究をすすめたい。また、現地での栽培試験も実施していきたい。 2 経営試算を行い、より低コストで所得があがる作型や開花調節技術について検討していきたい。トルコギキョウについては3月開花の開花調節技術について再度検討していきたい。 3

事後	(年度) 評価結果 (評価段階： 数値で) ・必要性 ・効率性 ・有効性 ・総合評価	(年度) 評価結果 (評価段階： 数値で) ・必要性 ・効率性 ・有効性 ・総合評価
	対応	対応

総合評価の段階

平成19年度以降

(事前評価)

S = 着実に実施すべき研究

A = 問題点を解決し、効果的、効率的な実施が求められる研究

B = 研究内容、計画、推進体制等の見直しが求められる研究

C = 不相当であり採択すべきでない

(途中評価)

S = 計画を上回る実績を上げており、今後も着実な推進が適当である

A = 計画達成に向け積極的な推進が必要である

B = 研究計画等の大幅な見直しが必要である

C = 研究費の減額又は停止が適当である

(事後評価)

S = 計画以上の研究の進展があった

A = 計画どおり研究が進展した

B = 計画どおりではなかったが一応の進展があった

C = 十分な進展があったとは言い難い

平成18年度

(事前評価)

1 : 不相当であり採択すべきでない。

2 : 大幅な見直しが必要である。

3 : 一部見直しが必要である。

4 : 概ね適当であり採択してよい。

5 : 適当であり是非採択すべきである。

(途中評価)

1 : 全体的な進捗の遅れ、または今後の成果の可能性も無く、中止すべき。

2 : 一部を除き、進捗遅れや問題点が多く、大幅な見直しが必要である。

3 : 一部の進捗遅れ、または問題点があり、一部見直しが必要である。

4 : 概ね計画どおりであり、このまま推進。

5 : 計画以上の進捗状況であり、このまま推進。

(事後評価)

1 : 計画時の成果が達成できておらず、今後の発展性も見込めない。

2 : 計画時の成果が一部を除き達成できておらず、発展的な課題の検討にあたっては熟慮が必要である。

3 : 計画時の成果が一部達成できておらず、発展的な課題の検討については注意が必要である。

4 : 概ね計画時の成果が得られており、必要であれば発展的な課題の検討も可。

5 : 計画時以上の成果が得られており、必要により発展的な課題の推進も可。